平成25年（2013年）12月10日 （火曜日） 本紙 朝刊 006ページ

スバル食品（福井）子会社化

ヨシケイ福井・すみよしG（鯖江）

高齢者市場に本格参入

調印式で握手を交わすヨシケイ福井・すみよしグループの園社長（右）と、同グループ副社長となったスバル食品の斎藤社長＝9日、鯖江市の同グループ本社

食材、弁当宅配業のヨシケイ福井・すみよしグループ（本社鯖江市水落町、園幸雄社長）は9日、食堂委託運営、弁当宅配のスバル食品（本社福井市森行町、斎藤勝弥社長）の全株式を取得し、100％子会社とした。スバル食品の社名は変更せず、従業員約330人の雇用は維持される。（土生仁巳）

この日、同グループ本社でM&A（企業の吸収・合併）の調印式が行われた。両社の社長が株式譲渡契約書に調印。両社を仲介したM&Aコンサルタント業のスターシップホールディングス（本社金沢市）の畠嘉伸社長も立ち会った。株式数などは非公開。

斎藤社長は9日付で同グループの副社長に就いた。

スバル食品は1962年、中小企業従業員の福利厚生の一端を担う、北陸初の企業向け給食センターとして創業した。県内企業の社員食堂や病院食堂、学生食堂の運営、介護施設への弁当宅配などを展開し、2013年3月期の売り上げは約11億円、製造規模は1日当たり約1万食。

同グループは72年に弁当宅配の「すみよし」を創業。79年にヨシケイ（本部静岡県）のFC（フランチャイズ）業務を行う「ヨシケイ福井」を設立した。現在はすみよし、ヨシケイ福井を含め7社を傘下に置き、13年3月期の売り上げは約30億円、1日当たり計約2万6千食を製造している。

同グループは、流動食などの介護食調理ノウハウを持つスバル食品を子会社化することで、拡大する高齢者市場への本格参入を目指す。両社合わせて計3万6千食と県内屈指の製造規模になることから、スケールメリットを生かし、仕入れコスト削減も図る。

園社長は「スバル食品の品質の高さと、当社の持つ衛生管理面。両社のレベルを上げ、時代に合わせた対応をしていきたい」と話した。

斎藤社長は「両社ともに利点を生かして、新たな展開をしていきたい」、

© 福井新聞社 無断複製・転載を禁じます